

第5学年1組 音楽科 学習指導案

期 日 平成21年10月2日（金）第5校時
 場 所 宇城市立不知火小学校 音楽室
 指導者 教諭 寺田 尚代

1 題材名

「音が重なり合う美しさを味わおう」（教育出版社）

2 題材について

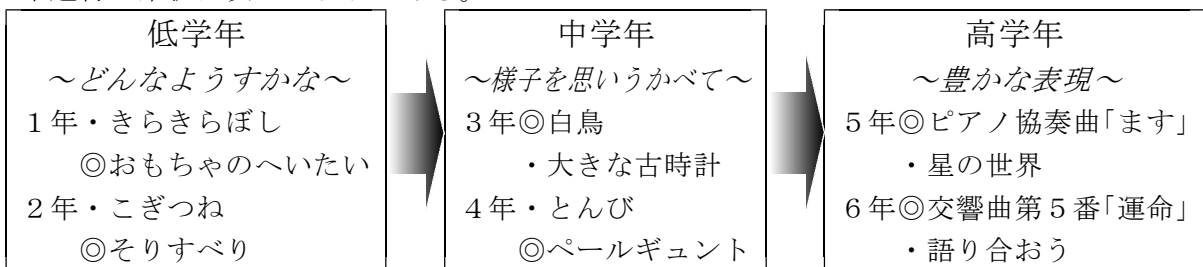
(1) 本題材では、歌声や楽器の音色が重なり合うことによさや面白さ、美しさを味わったり、美しい響きを感じられる表現を工夫したりすることをねらいとしている。「音の重なり」とは、複数の高さの音が同時に鳴り響くことによって生まれる縦の関係である。ここでは、音が重なり合うことによって生まれる響きのよさや美しさを感じ取らせたい。

特に、よさや美しさの秘密について、「なぜそのように感じるのか」音楽を根拠に考える場や思いや意図を表現するために工夫していく過程を大切に、児童が積極的に音楽にかかわる学習を展開していきたいと考える。

(2) 本題材と新学習指導要領の内容との関連は次のとおりである。

A表現(1)	イ「歌詞の内容，曲想を生かした表現を工夫し，思いや意図をもって歌うこと。」 エ「各声部の歌声や全体の響き，伴奏を聴いて，声を合わせて歌うこと。」
B鑑賞(1)	ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」 イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り，楽曲の構造を理解して聴くこと。」 ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして，楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」
〔共通事項〕	ア(7)音色，旋律，強弱，音の重なり，和声の響き

(3) 本題材の系統は次のとおりである。



(4) 本題材に係る児童の実態は次のとおりである。（アンケート結果を含む。）

Q1：音楽の授業は、楽しいですか。

とても楽しい 18人 楽しい 12人 あまり好きではない 0人 好きではない 0人

Q2：歌を歌うことは、好きですか。

とても好き 15人 好き 12人 あまり好きではない 3人 好きではない 0人

（とても）好きな理由

- ・クラスみんなで声を合わせて歌うのが楽しいから（5人）
- ・いろいろな歌を覚えるのはうれしいから（2人）
- ・二つのパートで歌い合わせると、気持ちがいいから（15人）
- ・音楽集会で全校で歌ったり、発表したりできたから（3人）
- ・歌が上手とほめられたから（2人）

あまり好きではない理由

- ・大きな声を出すのがはずかしいから（2人）
- ・歌が下手だから（1人）

Q3：音楽を聴く学習は、好きですか。

とても好き 5人 好き 18人 あまり好きではない 7人 好きではない 0人

(とても)好きな理由

- ・聴いたことがある音楽の曲名や作曲者が分かるから（9人）
- ・今まで知らなかった音楽をいろいろ聴くことができるから（5人）
- ・音楽を聴いて、いろいろな想像をするのが楽しいから（9人）

あまり好きではない理由

- ・曲の意味が分からないから（4人）
- ・知らない曲を聴いてもたいくつだから（1人）
- ・どんな感想を書いていいか分からないから（2人）

- 9月に実施したアンケートの集計結果によると、全員が「音楽の授業が好き」と答えており、音楽に対する興味・関心は高い。全体的に元気で活発な児童が多く、朝の会の歌も積極的に歌っている。しかし、歌うことへの関心は高いものの、発達段階による「恥ずかしさ」からやや声が小さくなりがちな児童も見られ、自分の歌声に自信をもてないでいる児童もいる。
- アンケートの記述から、ハーモニーに関心をもち始めている児童が多いことが分かる。したがって、児童たちのエネルギーを歌に向けることによって、「歌うことは楽しいことである。」という意識を育てながら、自分たちの声に自信をもたせていきたいと考える。
- 言語活動においては、国語科を中心として「なかよし学習」を取り入れながら、読解力・思考力・表現力を高める取組を行っているが、音楽科においては、今回の学習が初めてである。本学級の児童は進んで発表できる児童が多いが、音楽の語彙に乏しく、音楽の基礎・基本を確実に身に付けながら音楽の言葉を増やしていく必要があると考える。

(5) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 本題材では、楽器の音色が重なり合うことよさや面白さ、美しさを味わい、響き合う美しさを感じながら合唱活動を行うことが、楽しく、気持ちのよいことであることを児童に体感させ、歌声のもつ美しい音色を生かすことが大切であることに気付かせたい。
- 第1次の鑑賞教材を用いた学習では、主題がいろいろな楽器に受け継がれて変奏していくことに視点を当て、主題を演奏する楽器の音に他の楽器の音が重なり合うことで、豊かな響きを醸し出していくことの面白さを味わわせたい。
- 〔共通事項〕に示されている音楽を形づくっている要素を聴き取らせ、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取らせるために、学習シートや場の設定の工夫を行う。
- 第2次では、第1次で培った能力を基に、表現活動を展開する。「何をどのように工夫すると自分たちが目指す歌になるのか」というように、追究する課題を明確にすることで、音楽を形づくっている要素に対する意識を高め、試行錯誤を重ねながら思いや意図をもって表現する方法を考えさせたい。
- 互いの意見を出し合いながら表現の工夫を重ねる過程を大切に、みんなで合唱を創り上げていくという体験や、心を合わせて歌う喜びを大切にしたい。

〈人権教育の視点〉

児童一人一人の多様な感じ方を大切に、自信をもって発言できる環境づくりに努める。音楽から感じ取った友達の意見を互いに聞き合うことで、様々な考え方や感じ方があることに気付かせ、互いに認め合い、高め合う心情を育てていく。

〈思考力、判断力、表現力の育成に関する視点〉

曲から聴き取ったこと、またそれを基に感じたことなどを言語に表して伝え、話し合いの中で友達の考えや感じ方に気付き、自分の中にそれらを取り入れ高めていくような場面を設定することで、思考・判断させ、次のような点を工夫することで、言語活動の充実を図りたい。

- ①教師が問いかけたり、児童のよい考えを全体に紹介したりすることにより、児童が思いや意図をもって表現できるようにする。
- ②音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことを学習カードに書くことにより、一人一人の思いや意図が明確になるようにする。
- ③リーダーを中心に児童が見通しをもってグループ活動を行うことにより、児童が感じ取ったことを言葉を通して伝え合い、思考力、判断力、表現力を高めていく。

〈能本型授業の具体的展開に関する視点〉

ステップ1では、曲についての思いや意図を言葉で表現し合う場を設け、「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」を相互に関連させながら曲のイメージを高めていくような能動型学習を行う。

ステップ2では、教師の専門性を生かしながら、鑑賞曲を聴くポイントや聴き方、曲を表現するに当たって必要な技能や基本的な歌声づくりなどについての徹底指導を行う。

ステップ3では、主に能動型学習を行い、「楽曲を面白くしている作曲者の工夫」や「自分たちが目指す歌にするための工夫」について、グループや全体で話し合う場を設定し、児童の意欲や思いを高める。また、ステップ2で高まった歌唱の技能を生かして、各グループで表現を工夫し、最後に成果を発表し合う。

3 教材について

(1) 教材名

- ・ ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章
- ・ 「星の世界」

(2) 教材設定の理由

ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章は、主題と五つの変奏とコーダから成り立っている。主題は親しみやすい旋律で、変奏の様子を感じ取りやすい教材である。また、主な旋律とその変化、また、楽器の音色を感じ取りながら重奏の美しさを味わって聴くことに適した教材である。

「星の世界」は、無限に広がる星空の様子と宇宙の神秘を歌っており、歌詞の内容を考えたり、表現の工夫や音の重なりを楽しんだりしながら合唱に取り組むことに適している。教科書には、音楽表現にかかわる記号が記入されていないため、自分たちが“指揮者”となって合唱曲を創り上げるという目標に取り組むことに適している。

4 題材の目標と評価規準

題材の目標		○楽曲の構成や仕組みを理解し、音が重なり響き合う美しさを味わって聴く。 ○二部合唱の響きを味わって歌うことができるようにする。
評価規準	関心・意欲・態度	・ 楽器の響きや音色に関心をもって聴き、進んで表現に生かそうとしている。
	音楽的な感受と表現の工夫	・ 楽曲の特徴や重なり合う楽器の響きを感じ取り、歌い方や表現の仕方を工夫している。
	表現の技能	・ 歌い方や演奏の仕方を工夫して、音や声の重なり合う響きに気を付けながら、正しい発声で歌っている。
	鑑賞の能力	・ 楽曲全体を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けながら聴いている。

5 指導及び評価の計画（5時間取扱い）

次	時	学 習 活 動 【共通事項】	指 導 上 の 留 意 点 ※言語活動とその留意点	熊本型授業に関し て創意工夫した点	評価基準B 【観点】（方法）
1	1	「ます」の第4楽章を聴き、登場する楽器について話し合う。 ①主題の旋律を知る。 ②曲を聴き、楽器の音色を聴き取る。 ③楽曲全体を聴いて、各変奏の特徴について話し合う。 音色 旋律 強弱	○各変奏の主題を鑑賞しながら主な旋律と使われている楽器を確認する。 ※音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことを学習カードに書くことにより、一人一人の思いや表現の意図を明確にする。	○能動型学習では、「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」を相互に関連させながら、曲のイメージを感じ取り、思いを言葉で表現する場を設定する。	○楽曲に興味をもち使われている楽器の音色に関心をもって聴こうとしている。 【関心・意欲・態度】 （ワークシート、観察） ○楽曲全体を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けながら聴いている。【鑑賞の能力】 （ワークシート）
	2	「ます」の第4楽章の各変奏の特徴について話し合う。 ①低音楽器の役割について話し合う。 ②楽曲全体を鑑賞し、感想を述べる。 音の重なり 音色	○各変奏の主題を演奏している楽器や各変奏の特徴を聴き取るようにポイントを明確にする。 ※なぜそのように感じたのか、音楽を形づくっている要素と結び付けて考えさせるようにする。	○徹底指導として作曲者の思いや背景など、児童が楽曲の秘密を紐解く上で押さえない点を指導する。	○楽曲の特徴を、【共通事項】と関連付けて感じ取っている。 【音楽的な感受と表現の工夫】 （ワークシート、観察）
2	1	「星の世界」の曲全体の雰囲気を感じ取る。 ①範唱CDを聴き、曲の印象について意見を交流する。 ②各パートの歌詞唱をして旋律をつかむ。 旋律 音色	○跳躍する音程やリズムに留意させ、発声や発音に気を付けながら無理のない自然な声で歌うよう指導する。 ※教師が児童のよい考えを全体に紹介したりして、児童の思いを引き出すような工夫を行う。	○徹底指導として跳躍する音程やリズムを確認し、発声や発音に気を付けながら無理のない自然な声で歌うよう指導する。	○曲想全体を感じ取り、正しい音程や発声で歌っている。 【表現の技能】 （ワークシート、観察）
	2	表現の工夫について話し合う。 ①各パートの音取りを正確に行う。 ②グループで表現の工夫について、話し合い練り上げる。 音の重なり 音色 旋律 強弱	○グループごとに気付きを自由に記入できるように拡大楽譜を準備する。 ※自分たちの目指す歌にするために、どこをどのように工夫するのか具体的に話し合うように促す。	○能動型学習では、どんな共通事項を使って、どのように工夫するのか、グループや全体で話し合う場を設定し、児童の意欲や思いを高める。	○【共通事項】と結び付けて、歌い方の工夫を考えている。 【音楽的な感受と表現の工夫】 （ワークシート、観察）
	3	響きを感じながら二部合唱をする。 ①前時に各グループから出された工夫について確認し合う。 ②各グループから出された工夫を生かし、全体で二部合唱をする。 音の重なり 和声の響き	○各グループの工夫を表現に生かしながら歌うよう指導する。 ※児童のよい考えや歌い方を全体に紹介したりすることにより、児童が思いや表現の意図をもって表現できるようにする。	○徹底指導では、各グループの工夫が表現に生かされるように、一つ一つ確認をしながら全体で歌い表現の技能を高める。	○互いのパートを聴き合いながら気持ちを込めて歌っている。 ○各グループの工夫を意識して表現に生かそうとしている。 【音楽的な感受と表現の工夫】 （ワークシート、観察）

6 検証授業Ⅰの展開案（第1次 第2時）

- (1) 目標：ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章の特徴を音楽を形づくっている要素と関連付けながら聴く。
- (2) 〔共通事項〕：「音の重なり」「音色」
- (3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	徹底	能動	T：主な発問・指示等 C：児童の予想される反応	指導上の留意点及び工夫点 評価基準 ※言語活動	備考
導入 10分	1 前時の学習を確認する。【一斉】 ・主題を聴く。(CD) 2 本時のめあてを確認する。【一斉】 「ます」の美しさのひみつを探ろう！	○		T：各変奏の主役の楽器を確認しましょう。 C：児童の予想される反応	・主題を聴いて、今までの〔共通事項〕を想起させる。 ・この楽曲は、主題がいろいろな楽器に移り変わることを確認する。	CD 拡大楽器絵 短冊
展開 30分	3 コントラバスの役割について話し合う。【グループ】 (1) 第3・4変奏を聴く。 ・低音楽器があることでどんな感じがするか考え、ワークシートに書く。 (2) リコーダーで主題を演奏し、低音楽器の役割について考える。 ・作曲者の工夫点について話し合う。 4 作曲者がこの曲に込めた思いを知る。【一斉】		○	T：なぜ、この曲にコントラバスを使ってあるのか考えてみましょう。 C：低音楽器があることで迫力のある演奏になっている。 C：他の楽器を引き立てている。 C：安心して自由に演奏ができる。	・低音楽器の役割を意識しながら聴かせるようにする。 ・コントラバスがあることで、他の楽器が自由に演奏できることに気付かせる。 ・実際にリコーダーで主題を演奏させ、演奏者の立場で考えさせる。 ※言語活動 ①この曲の魅力について、音楽を形づくっている要素と結び付けながら考えさせるようにする。 ②感じたことを発表させ、互いのよさを認め合う雰囲気大切に。	CD ワークシート
	5 全曲をDVDで映像で鑑賞する。【一斉】		○	T：最後に映像で曲を聴いてみましょう。	評価基準（学習シート） B：楽曲の特徴を〔共通事項〕と関連付けて感じ取っている。 A：楽曲の特徴を〔共通事項〕と関連付けて感じ取り、具体的な情景が分かるように表現している。	DVD
終末 5分	6 感想を互いに出し合い、本時の学習のまとめとする。【一斉】	○		C：シューベルトがこの曲をつくった秘密を知ることができて、うれしかった。	Bに達しない児童への手だて：イメージを言語表現にたとえながら、個別指導を行う。	

7 検証授業Ⅱの展開案（第2次 第2時）

(1) 目標：「星の世界」の歌詞の表す情景にふさわしい表現を工夫する。

(2) 〔共通事項〕：「音の重なり」「音色」「旋律」「強弱」

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	徹底	能動	T：主な発問・指示等 C：児童の予想される反応	指導上の留意点及び工夫点 評価基準 ※言語活動	備考
導入 10分	1 既習曲を歌う。 【一斉】 2 前時の学習を想起しながら、「星の世界」を歌う。 【一斉】 3 本時のめあてを確認する。 【一斉】	○ ○	○ ○	T：主な発問・指示等 C：児童の予想される反応 T：声の響きに気を付けながらのびのびと歌いましょう。 T：「星の世界」のどんな情景を聴く人に伝えたいですか。 C：たくさんの星がきらきら輝く様子が伝わるようにしたい。 T：「ます」の鑑賞で学んだ「音楽のひみつ」を使って歌い方を工夫しましょう。 C：ぼくたちは「強弱」を使って工夫するぞ。	・安心して、進んで声を出せる雰囲気づくりに心掛ける。 ・星空の写真を提示し、星の世界のイメージをもたせる。 ・自分の思いや聴いている人に伝えたい情景について自由に発表させる。 ・鑑賞教材で学んだことを自分たちの歌の表現に生かしていくことを確認する。	星空の写真
「星の世界」の情景を歌で工夫して表現しよう！						
展開 30分	4 グループに分かれて、工夫することを確認し、歌の練習をする。【グループ】 (1) グループのめあてを確認する。 (2) 考えた工夫が伝わるように歌う練習をする。 5 グループで工夫したことを出し合う。【グループ】 6 無理のない自然な声で歌えるよう、正しい発声や発音について確認する。 【一斉】 7 互いの発表を聴いて意見交換をする。【グループ】	○ ○ ○	○ ○ ○	T：各グループで工夫したことが聴く人に伝わるように、歌う練習をしましょう。 C：よし、工夫したことが伝わるようにがんばるぞ。 T：話し合ったことを発表してください。 C：「かがやく」「きらめく」は、きらきらした声（音色）ではっきり歌った方がいい。 C：3段目に「曲の山」があるので、それが分かるようにだんだん強くして歌う。 T：工夫点を歌で表現できるように、正しい発声法を確認しましょう。 C：うまく歌えるようにがんばるぞ。 T：二つの組に分かれてお互いの歌声を聴き合ってみましょう。 C：二つのパートの音の重なりがとともきれいでした。 C：「曲の山」は、もう少し強くした方がいいと思います。	・各グループで、「音楽のひみつ」〔共通事項〕を意識しながら練習させるようにする。 ・自分たちが工夫したことを、実際に班で歌ってみて確かめ、工夫を練り直す場面も大切にさせる。 ・各グループが工夫した点が分かるように、拡大楽譜に書き込む。 ※言語活動 ①工夫したいことについて〔共通事項〕と結び付けて考えさせる。 ②感じたことを自由に発表させ互いのよさを認め合う雰囲気を大切にす。 評価基準（ワークシート、観察） B：歌い方の工夫について、〔共通事項〕と関連付けて気付きを出している。 A：歌い方の工夫について〔共通事項〕と関連付けて具体的に気付きを出している。 Bに達しない児童への手だて：〔共通事項〕を分かりやすい言語表現にたとえながら、個別指導を行う。	楽譜 拡大楽譜 ワークシート
終末 5分	8 最後に全員で歌い、本時の学習のまとめとする。 【一斉】	○	○	T：工夫を歌で表現するのは難しいですね。次の時間に、出し合った工夫を生かしてみんなで曲を仕上げましょう。	・次の時間には、各グループから出された工夫を生かして、みんなで歌を仕上げることを知らせる。	